⑥刊行物に関する事業一覧

プロジェクト及び刊行物の名称	担当部門	頁
広報企画事業　『東京文化財研究所年報』、『東京文化財研究所概要』、『東文研ニュース』（＊企08）	企画情報部	81
平成26年版『日本美術年鑑』　刊行事業・出版事業『美術研究』（調査・研究成果の公開）（企09）	企画情報部	81
無形文化遺産部出版関係事業『無形文化遺産研究報告』（無04）	無形文化遺産部	81
『無形民俗文化財研究協議会報告書』	無形文化遺産部	82
『保存科学』55号の出版（保修09）	保存修復科学センター	82
プロジェクトの一環として刊行された刊行物	担当部門	頁
『四季花鳥図屏風　光学調査報告書』（＊保修01）	保存修復科学センター	82
『平等院鳳凰堂内　光学調査報告書』（＊保修01）	保存修復科学センター	82
『IPMフォーラム 臭化メチル全廃から10年：文化財のIPMの現在』（＊保修02）	保存修復科学センター	83
『文化財における伝統技術及び材料に関する研究報告書2015年度』（＊保修06）	保存修復科学センター	83
『未来につなぐ人類の技15―洋紙の保存と修復』（＊保修07）	保存修復科学センター	83
Conservation and Restoration of Modern Textiles（＊保修07）	保存修復科学センター	83
『世界遺産用語集』（＊セ01）	文化遺産国際協力センター	84
『各国の文化財保護法令シリーズ［20］　メキシコ』（＊セ01）	文化遺産国際協力センター	84
『選定保存技術に関する調査報告書 1　和鋼』（＊セ01）	文化遺産国際協力センター	84
カレンダー2016「文化財を守る日本の伝統技術」（＊セ01）	文化遺産国際協力センター	84
『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力　平成27年度成果報告書』（＊セ02）	文化遺産国際協力センター	84
『東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望』（＊セ02）	文化遺産国際協力センター	85
Riset Integrasi Berlandaskan Rekonstruksi Warisan Budaya Kawasan Padang Lama di Padang, Sumatera Barat（＊セ02）	文化遺産国際協力センター	85
Laporan'Workshop mengenai Rehabilitasi Kawasan Padang Lama di Provinsi Sumatera Barat'（＊セ02）	文化遺産国際協力センター	85
Preliminary Report on the Safeguarding of the Bamiyan Site 2013: 11th Mission（＊セ03）	文化遺産国際協力センター	85
『キルギス共和国チュー川流域の文化遺産の保護と研究　アク・ベシム遺跡、ケン・ブルン遺跡－2011～2014年度－』（＊セ03）	文化遺産国際協力センター	86
『紛争と文化遺産―紛争下・紛争後の文化遺産保護と復興―』（＊セ03）	文化遺産国際協力センター	86

『フルブック遺跡出土壁画断片の保存修復』（＊セ06）	文化遺産国際協力センター	86
『在外日本古美術品保存修復協力事業報告書』（＊セ04）	文化遺産国際協力センター	86
『国際研修「日本の材料と技術による保存修復」』（＊セ04、セ05）	文化遺産国際協力センター	87

＊注
・『東京文化財研究所年報』『東京文化財研究所概要』『東文研ニュース』は、広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（③企08）の一環として実施した。
・『四季花鳥図屛風　光学調査報告書』は、文化財の材質及び劣化調査法に関する研究（①保修01）の一環として実施した。
・『平等院鳳凰堂内　光学調査報告書』は、文化財の材質及び劣化調査法に関する研究（①保修01）の一環として実施した。
・『文化財における伝統技術及び材料に関する研究報告書　2015年度』は、文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究（①保修06）の一環として実施した。
・Conservation and restoration of modern textilesは、近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究（①保修07）の一環として実施した。
・『世界遺産用語集』、『各国の文化財保護法令シリーズ［20］　メキシコ』、『選定保存技術に関する調査報告書１　和銅』、カレンダー2016は、文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信（②セ01）の一環として実施した。
・『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力　平成27年度成果報告書』、『東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望』、Riset Integrasi Berlandaskan Rekonstruksi Warisan Budaya Kawasan Padang Lama di Padang, Sumatera Barat、Laporan‘Workshop mengenai Rehabilitasi Kawasan Padang Lama di Provinsi Sumatera Barat’は、東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力（②セ02）の一環として実施した。
・Preliminary Report on the Safeguarding of the Bamiyan Site 2013: 11th Mission、『キルギス共和国チュー川流域の文化遺産の保護と研究　アク・ベシム遺跡、ケン・ブルン遺跡－2011～2014年度－』は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ03）の一環として実施した。
・『在外日本古美術品保存修復協力事業 The Cooperative Program for the Conservation of Japanese Art Objects Overseas』は、在外日本古美術品保存修復協力事業（②セ04）の一環として実施した。
・『国際研修「日本の材料と技術による保存修復」』は、在外日本古美術品保存修復協力事業（②セ04）および国際研修「紙の保存と修復」（⑤セ05）の一環として実施した。

広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（＊③企08）

『東京文化財研究所年報』『東京文化財研究所概要』『東文研ニュース』の刊行は、広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（③企08）の一環として実施した（概要・ニュースは研究支援推進部企画渉外係が編集を担当）。詳細は、57頁を参照。

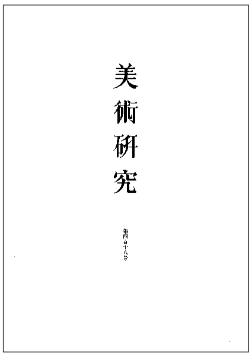
平成26年版『日本美術年鑑』 刊行事業・出版事業『美術研究』（調査・研究成果の公開）（⑥企09-15-5/5）

『日本美術年鑑』

日本美術年鑑は、我が国の各年の美術活動と美術研究・批評の状況を記録した刊行物である。企画情報部では当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が1936（昭和11）年から始めた『日本美術年鑑』の編集を引き継ぎ、刊行を継続してきた。平成26年版は、B５判、474ページとなった。出版に際し、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。

『美術研究』

1932（昭和７）年１月、当研究所の前身である帝国美術院付属美術研究所の初代所長・矢代幸雄の提唱により第１号を刊行。以来、80年以上にわたり、日本・東洋の古美術ならびに日本の近代・現代美術とこれらに関する西洋美術についての論文、研究ノート、書評、展覧会評、図版解説・研究資料等を掲載している。本年度は416号、417号、418号を刊行した。出版に際して、東京美術商共同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。



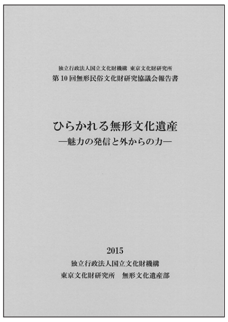
無形文化遺産部出版関係事業（⑥無04-15-5/5）

『無形文化遺産研究報告』

無形文化財や無形民俗文化財、文化財保存技術に関する研究論文、調査報告、資料紹介等を掲載している。

『無形民俗文化財研究協議会報告書』

無形文化遺産部では毎年テーマを定め、保存会関係者・行政担当者・研究者などが一堂に会して無形の民俗文化財の保護と継承について研究協議する会を開催している。第10回にあたる本年度は、「ひらかれる無形文化遺産－魅力の発信と外からの力」をテーマとして開催し、その報告・総合討議の内容などをまとめて報告書として刊行した。



『保存科学』55号の出版（⑥保修09-15-5/5）

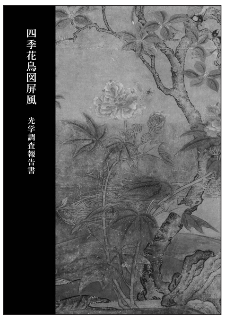
『保存科学』55号

文化財の保存・修復に関する調査・研究成果の公開を目的に、研究論文集『保存科学』を刊行した。様々な文化財の科学的調査結果や基礎研究に関する論文、受託研究に関する研究報告・修復処置報告等を掲載している。また、より一層の研究成果の公開に努めるため、『保存科学』掲載論文PDFファイル化を行い、インターネット上での公開を行った。今年度は報文2件、報告11件、計13件の論文を掲載した。

プロジェクトの一環として刊行された刊行物

『四季花鳥図屏風　光学調査報告書』（①保修01の一環として実施）

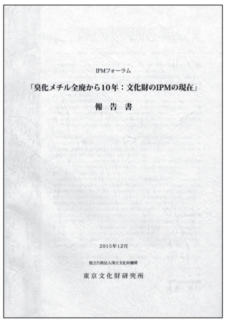
サントリー美術館が所蔵する四季花鳥図屏風（重要文化財）は室町時代に描かれた花鳥画の代表作として知られ、中国の花鳥画を粉本にしていると考えられているが、やまと絵風の画面構成がなされている興味深い作品である。東京文化財研究所では平成27年度に非破壊・非接触の光学調査を実施した。本書では、高精細カラー・近赤外線画像を多数掲載するとともに、蛍光Ｘ線分析、Ｘ線透過撮影、可視反射分光分析の調査結果を併せて収録した。2016年３月刊行、168ページ。



『平等院鳳凰堂内　光学調査報告書』（①保修01の一環として実施）

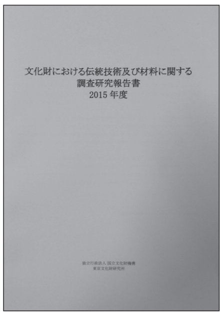
本書は、平等院鳳凰堂須弥壇に関する光学調査報告書である。鳳凰堂須弥壇に関しては、これまで、詳細な画像記録が行われたことはほとんどなく、金属部材等に関しても一部の材料調査が行われていたにすぎない。東京文化財研究所では、平成27年度に複数回の光学調査を実施し、須弥壇の現状を正確に記録するとともに、数多くの金属部材の材料調査を行った。本書では、多数の高精細画像を掲載するとともに、蛍光Ｘ線分析による金属部材の調査結果をすべて収録した。2016年３月刊行、256ページ。

『IPMフォーラム 臭化メチル全廃から10年：文化財のIPMの現在』（①保修02の一環として実施）



本報告書は、2015 年7月16日に開催したフォーラム「臭化メチル全廃から10年：文化財のIPM の現在」の各講師の講演内容を基に論文集として取りまとめたものである。モントリオール議定書締約国会議による2005年からの臭化メチル使用全廃、その10年という節目に、これまでの活動をふりかえりつつ、現状での文化財分野のIPMの活動状況、進展や問題点も含めて情報を共有し、現在の課題と、今後必要な方向性を考えた概論や事例研究の論文を掲載している。報告書の幅広い活用をめざし、掲載論文のPDFファイルをインターネット上で公開した。2015年12月刊行、84ページ。

『文化財における伝統技術及び材料に関する研究報告書　2015年度』（①保修06の一環として実施）

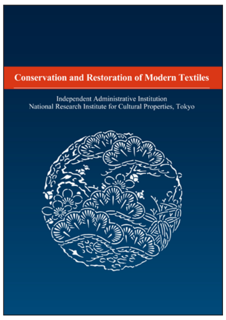


劣化が著しい文化財建造物の塗装彩色材料や漆塗装を有する考古資料などの各種文化財における伝統技術及び材料の調査を行い、実際の修理施工に役立てることを目的としたプロジェクト「文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究」の本年度の活動と五カ年計画の総括を行った報告書である。報告書では、①調査研究報告として、表装裂試料データベース目録一覧、②本年度開催した研究会の報告として各発表の要旨、③本プロジェクト研究五カ年の総括、を掲載した。2016年3月刊行、87ページ。

『未来につなぐ人類の技15―洋紙の保存と修復』（①保修07の一環として実施）

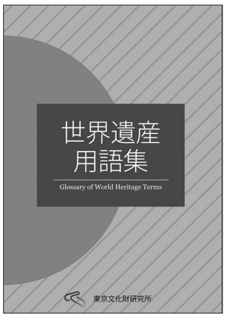
本書は、2014（平成26）年11月に東京文化財研究所で開催した研究会「洋紙の保存と修復」に関して、元国立国会図書館副館長、脱酸処理技術などによる資料保存を行う企業担当者、装こうの修復技師、メキシコとカナダの国立公文書館にて修復作業を担当している方々による講演と、質疑応答の抜粋をまとめたもの。2016年3月刊行、79ページ。

Conservation and Restoration of Modern Textiles（①保修07の一環として実施）



本書は、2016（平成26）年3月に発行した、「近代テキスタイルの保存と修復」の英訳版。博物館、美術館の保存修復部門の方々、研究機関の修復室の方、更には染織品修復師の方等による、近代テキスタイルの保存と修復に関する講演録。2016年3月刊行、77ページ。

『世界遺産用語集』（②セ01の一環として実施）

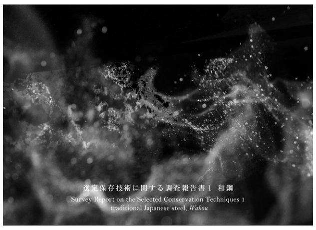


本書は世界遺産の推薦や保全状況報告の際に重要となる77件の用語について、英語とその和訳、定義をまとめたもの。2012～15年の世界遺産委員会などでの議論や関連事項についての解説も付している。2016年3月刊行、144ページ。

『各国の文化財保護法令シリーズ［20］　メキシコ』（②セ01の一環として実施）

本冊子は、メキシコの文化遺産保護に関する法令「考古学・芸術・歴史的記念物及び地区に関する連邦法」を、原文のスペイン語から和訳したものである。巻末には原文も併せて掲載している。日本語・スペイン語、2016年3月刊行、79ページ。

『選定保存技術に関する調査報告書 1 和鋼』（②セ01の一環として実施）

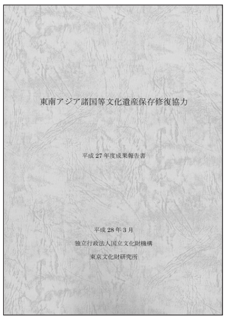


日本の選定保存技術を海外に紹介するために調査を行った、玉鋼製造（たたら吹き）に関する調査報告書。たたら吹きは日本古来の製鉄技術で、日本刀製作に欠かせない不純物の非常に少ない玉鋼が製造される。日本語・英語、2016年3月刊行、160ページ。

カレンダー2016「文化財を守る日本の伝統技術」（壁掛版・卓上版）（②セ01の一環として実施）

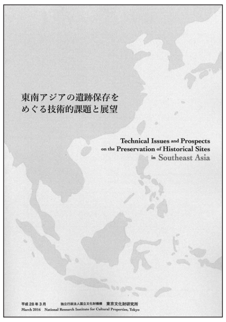
日本の文化財に関する技術と材料を海外に紹介するため、12種類の選定保存技術について調査と写真撮影を行い、壁掛版と卓上版のカレンダー２種類を作成した。各技術についての解説を付した。日本語・英語、2015年11月刊行。

『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力　平成27年度成果報告書』（②セ02の一環として実施）



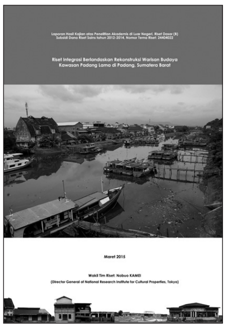
平成27年度に東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力として、カンボジア及びミャンマーを中心に実施した諸事業の内容と事業成果、関連資料・報告等を収録。日本語、2016年3月刊行、124ページ。

『東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望』（②セ02の一環として実施）



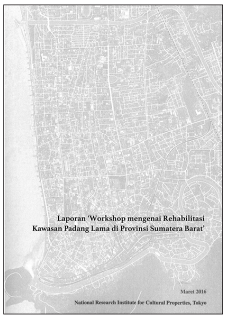
2015（平成27）年11月13日に東京文化財研究所において開催した同題研究会の内容を収録した報告書。インドネシア、タイ、カンボジア、ベトナム、ミャンマーの5か国より招聘した考古・建築遺跡保存専門家からの書き下ろし論考と、会場からの質疑応答を含む総合討論の内容を採録。日本語・英語、2016年3月刊行、104ページ。

Riset Integrasi Berlandaskan Rekonstruksi Warisan Budaya Kawasan Padang Lama di Padang, Sumatera Barat（②セ02の一環として実施）



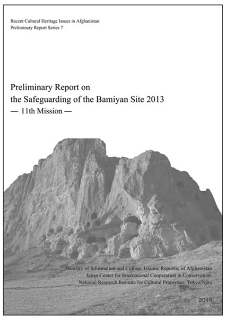
2015（平成27）年3月に刊行した『西スマトラ州パダン歴史地区における文化遺産復興に関する総合的研究』（平成24～26年度日本学術振興会科学研究費助成事業・基盤研究（B）海外学術調査、研究課題番号：24404022、研究代表者：亀井伸雄　東京文化財研究所所長）のインドネシア語版。データ収録CD付録。インドネシア語、2015年8月刊行、74ページ。

Laporan ‘Workshop mengenai Rehabilitasi Kawasan Padang Lama di Provinsi Sumatera Barat’（②セ02の一環として実施）



2015（平成27）年8月26日にインドネシア西スマトラ州パダン市内において開催した「西スマトラ・パダン歴史地区の再生に関するワークショップ」（西スマトラ州観光・創造経済局主催）の内容を収録した報告書。同ワークショップでの発表資料と総合討論の概要に加え、パダン歴史地区の価値評価と復興の方向性等に関する日本人専門家からの諸提言を採録。インドネシア語、2016年3月刊行、150ページ。

Preliminary Report on the Safeguarding of the Bamiyan Site 2013: 11th Mission（②セ03の一環として実施）

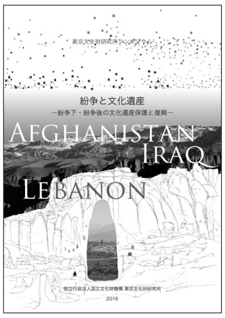


本書は2013（平成25）年9月から10月にかけて派遣したバーミヤーン遺跡保存事業第11次ミッションの英文概報である（和文は2015年3月に刊行）。同ミッションで実施した壁画の状態調査、環境計測データの回収、考古遺跡の現状調査等について報告した。また、武庫川女子大学が作成したバーミヤーン新博物館の基本設計案も補遺として収録した。英語、2015年12月刊行、95ページ。

『キルギス共和国チュー川流域の文化遺産の保護と研究　アク・ベシム遺跡、ケン・ブルン遺跡－2011～2014年度－』（②セ03の一環として実施）

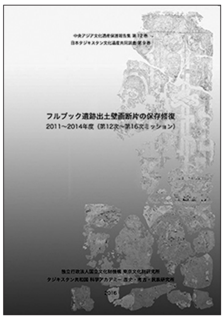
本書は平成23年度から26年度にかけて、キルギス、アク・ベシム遺跡及びケン・ブルン遺跡において文化遺産国際協力活動の一環として実施した調査研究事業の報告書である。アク・ベシム遺跡の発掘調査で出土したイスラーム時代の遺構や遺物、動植物遺存体、放射性炭素年代結果等についての報告及びケン・ブルン遺跡の測量と表面採集遺物の分析結果を掲載した。補遺には漢文史料に基づくアク・ベシム遺跡の歴史学的考察も収録した。日本語、2016年3月刊行、108ページ。

『紛争と文化遺産―紛争下・紛争後の文化遺産保護と復興―』（②セ03の一環として実施）



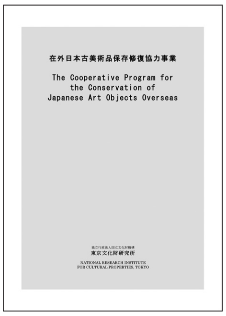
2016（平成28）年1月24日に東京文化財研究所において開催されたシンポジウム「紛争と文化遺産―紛争下・紛争後の文化遺産保護と復興―」に関する報告書である。4名の講演者による4本の講演と、パネルディスカッション「紛争下・紛争後の地域における今後の国際的な文化遺産保護協力の在り方」を録音音声から起こし、整理・日本語訳したものを収録している。日本語、2016年3月刊行、91ページ。

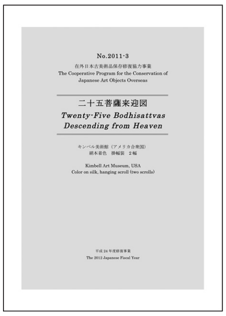
『フルブック遺跡出土壁画断片の保存修復』（②セ06の一環として実施）

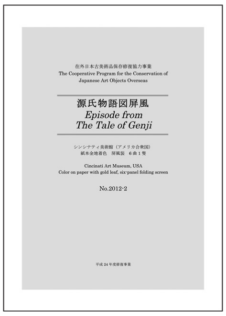


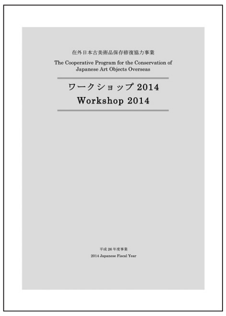
本書は、2008（平成20）年より2014（平成26）年までタジキスタン国立古代博物館において実施した、フルブック遺跡出土壁画断片の保存修復事業の最終報告書である。フルブック遺跡は同国南部に位置する9～11世紀半ばに利用された都城址であり、1983年には、本来壁面幅1m×高さ2mに描かれた壁画の一部であった10～11世紀の製作と思しき壁画断片が発見された。この壁画断片を対象として実施された調査及び保存修復処置、そして博物館での展示に至るまでの一連の保存修復事業の成果を報告した。日本語、2016年2月刊行、159ページ。

在外日本古美術品保存修復協力事業　The Cooperative Program for the Conservation of Japanese Art Objects Overseas（②セ04の一環として実施）





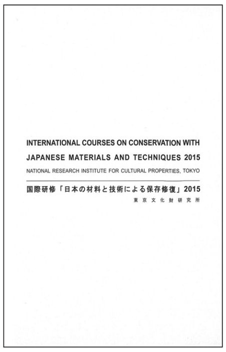




在外日本古美術品保存修復協力事業では海外で所蔵されている紙本絹本文化財および漆工芸品のうち、修復が必要な作品の修復協力を行っている。また、日本の文化財に対する理解の深化、修復技術の移転の目的でワークショップを開催している。本事業の報告として、以下の報告書を刊行した。日本語・英語、2016年3月刊行。

「在外日本古美術品保存修復協力事業」（20ページ）
「在外日本古美術品保存修復協力事業　二十五菩薩来迎図」（84ページ）
「在外日本古美術品保存修復協力事業　源氏物語図屏風」（56ページ）
「在外日本古美術品保存修復協力事業　秋野蒔絵硯箱」（32ページ）
「在外日本古美術品保存修復協力事業　ワークショップ2014」（12ページ）

国際研修「日本の材料と技術による保存修復」（②セ04、⑤セ05の一環として実施）



本書は、平成27年度に東京文化財研究所文化遺産国際協力センターが実施した以下の国際研修、「紙本絹本文化財の保存と修復」（7月8日～17日、ドイツ連邦共和国・ベルリン）、「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」（11月4日～12日、メキシコ合衆国・メキシコシティ）、「漆工品の保存と修復」（11月13日～26日、ドイツ連邦共和国・ケルン）について、及び新規国際研修「染織品の保存と修復（仮称）」の為の協議を、記録したものである。日本語・英語、2016年3月刊行、329ページ。